

第4分科会

特別支援教育の理解 —個々に応じた支援と家庭支援—

筑波大学医学医療系

水野 智美

発達障害傾向のある子どもはたくさんいる

- 小学校1年生では8～9人に一人の割合
自閉症スペクトラム、ADHD(衝動型、不注意型)、
LD(学習障害)。
大きくなるにしたがって割合は減っていく
- どの園にもいる。どの学校にもいる。どの職場
にもいる。保育者にも、学者にも、保護者にも。
- 巡回指導や訪問指導で「発見」することも多い。
- 怖い二次障害

医師、保護者、
保育者の違い
はここ！



発達障害と診断



弱

強

困っている子どものすべてに支援が必要



最新情報一覧

発達障害について

子育てプロの視点

子育てコラム **NEW!**

子育てお役立ち
コンテンツ

子育て掲示板

動作の方法、手順を理解できない

集中力が途切れがち

感覚が敏感・鈍感

変化が苦手

考える前に行動してしまう

発達障害の子どもは、大人が何気なく過ごしている生活の中でも、ふとした瞬間に困難を抱えがちです。日常生活で発達障害の子どもが抱えがちな問題とその原因、支援のコツを紹介します。

日常生活における発達障害の子どもを支援するコツ



うちの子「育てにくい子」？ 発達障害を知る2ステップ

STEP 1 子どもが「育てにくい子」かも？と思ったら

STEP 2 「育てにくい子」を育てる悩みに役立つ知識

お子さんを「育てにくい子」と感じたことはありませんか？もしかしたら、その子は特別な支援が必要な子どもかもしれません。自閉症やアスペルガー障害、ADHDなどの発達障害について知りましょう

- 「育てにくい子」を持つ保護者の方へ
- 気になる発達障害「自閉症」
- 気になる発達障害「アスペルガー障害」
- 気になる発達障害「ADHD」

うちの子、気になったらチェック！
発達障害かも…？

子育ての悩み、プロに相談してみよう

徳田先生への質問

アクセスランキング (10月10日更新)

自閉的傾向のある子どもに見られる特徴

ADHDの子どものチェックリスト1

【行動編】

- 3歳になっても、食事の時にイスにじっと座ってられず、立ち歩く
- 目的の物があるとそれしか目に入らずに突進していく(周りに障害物があっても目に入らずにぶつかったり踏んだりする)
- ショッピングセンターなどで気になるもののところに走って行ってしまう
- 目に付いた物をすぐに触る(非常ボタンを押す、スイッチを押す)
- 高いところに登ろうとする(登ってしまう)
- おもちゃや時計のなかがどうなっているのかを知りたくて、無理やり中身をこじ開けて壊してしまう
- 同じ年齢の子どもに比べてケガが多い
- 机やドア、人によくぶつかる
- 車が走っている道路でも、確認せずに道路に飛び出してしまう
- 順番を守るように言われても、待ってられずに割り込む
- 何度注意されても同じことを繰り返す(走らないように注意されても、すぐに走り回る、など)

ADHDの子どものチェックリスト2

【感情編】

- ささいなことで友だちを叩いてしまう(身体がぶつかった、自分の使いたかったおもちゃを先に使ったなど)
- ルールや決まりを頭では理解しているのに、ついルール等をやぶってしまい、後になってから反省する
- 自分の気持ちをがまんすることができず、ちょっとしたことで激しく怒る
- 理由なく周りにいる子どもを叩いたり押したりしてしまう
- 興奮しやすく、なかなか落ち着けない
- 自分を否定されることに過度に反応する(トラブルの時など、被害者意識が強い)
- 興奮して、つい大きな声を出してしまう
- 昔のことを思い出して、突然怒り出す(友だちに1ヶ月前に言われたことに対して腹を立てる)

自閉症スペクトラムの子どものチェックリスト1

【運動・動作編】

- 小走りをする時に、足のかかところが地面に着かず、つま先立ちになる
- その場でくるくると回る
- 目を細めてキラキラしたものをみる
- 顔の前で手をひらひらさせる
- 姿勢よく座ることが苦手で机やいすの背もたれにもたれかかる
- 「気をつけ」の姿勢をとらせても、すぐに体がぐにやぐにやする
- 走り方がぎこちない(両手を前に突き出して走る、など)
- 縄跳びや跳び箱、マット運動が苦手である
- ごろごろと床に寝転ぶ
- エスカレータに乗るのが苦手
- 動いている物をとることが苦手(飛んできたボールをキャッチする、など)
- 穴が空いているところに物をつめたがる(コンセントに定規を入れる、鉛筆削りに指をいれようとする、など)
- ロッカーや机の下など狭いところに入りたがる(入ると落ち着く)

自閉症スペクトラムの子どものチェックリスト2

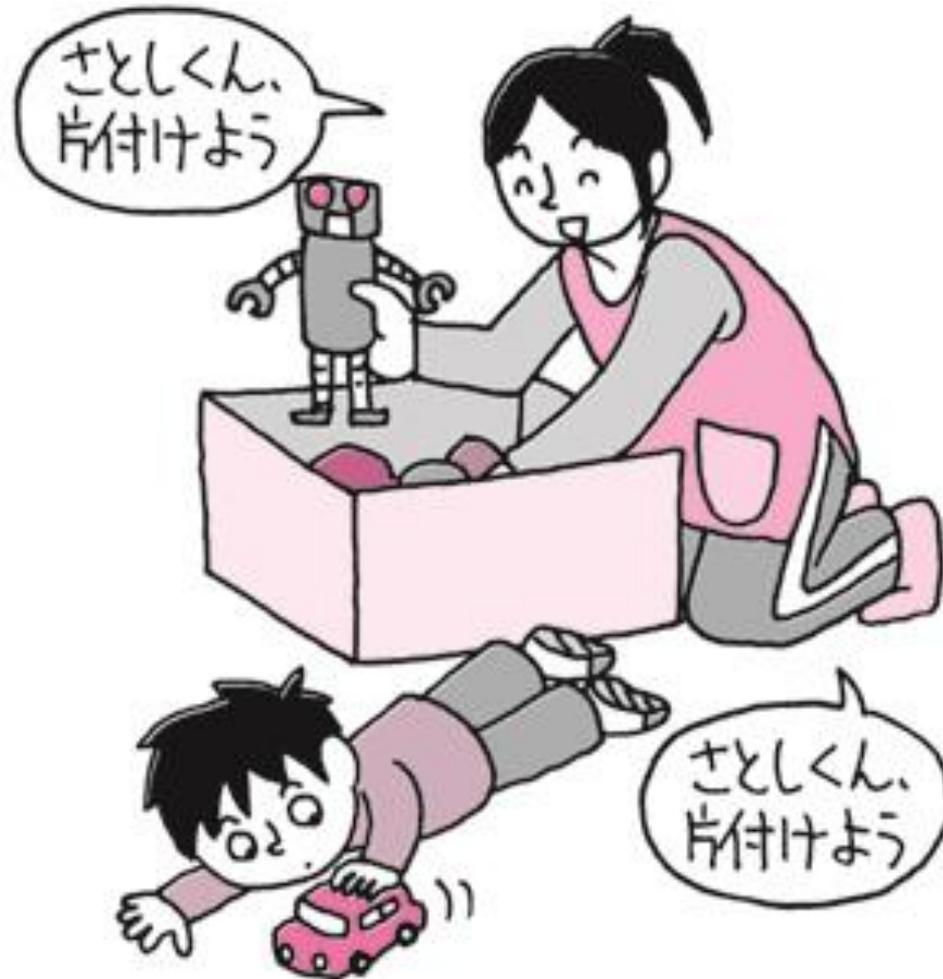
【生活編】

- **偏食が強い**(白いご飯しか食べない、初めて見るものは全く食べようとしない、特定のメーカーの食品しか食べない)
- (保育所や幼稚園で)**いつも決まったトイレで用をたす**
- 自分のうち以外のトイレに行くことを嫌がる
- おしっこはトイレでできるが、うんちはオムツのなかにしかしない
- 水遊びをやめられない(水道や洗濯機、トイレの水などをずっと眺めていたり触ったりする)
- **昼寝をしない／夜眠らない**(乳児期を過ぎても睡眠のリズムが定まらない)
- 毎日同じ手順や道順にしないと怒る(同じ道を通って保育所、幼稚園に行く、身支度の順番が決まっている)
- **予定が変わると泣き叫ぶ**(いつも見ている番組が放映されなくなった時など)
- 自分で決めた順番通りにすすまないと泣いて怒る
- **幼稚園や保育所の先生や友だちの顔を覚えられない**(例:2年間同じクラスで過ごしている子どもの名前がわからない)

保育、教育の場での気になる子どもの例

- ・先生の指示に従わない
- ・お友だちに手が出る
- ・座ってられない、じっとしてられない
- ・活動の切り替えが苦手
- ・2つ以上の指示をすると混乱する
- ・一番じゃないと嫌だと騒ぐ
- ・並ぶことができない(順番を抜かす)
- ・ぼお一つとしている など

こんなことをしていませんか？



片付けます!



ちくちくきましたー!

発達障害のある子どもの支援の 基本中の基本

子どもが**わかる環境**を作ること

気になる子どもは「わかっていない」。
今何をするのか、次は何をするのか、
どうしてそれをするのか、相手はどういう
気持ちなのか。



「わかる環境」を作るための 指示の仕方

- はっきり、短く、具体的に
- 目で見てわかる手がかり
(絵カード、実物、ジェスチャーなど)
- 指示は個別に
- 指示は、その子が主語になるように
- **スモールステップ**を用いて

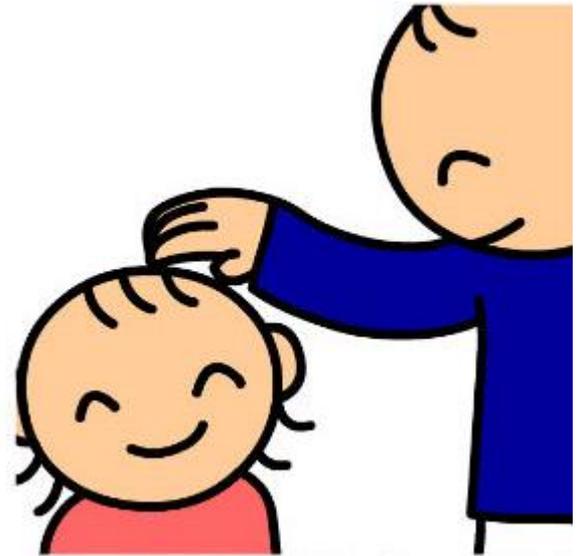
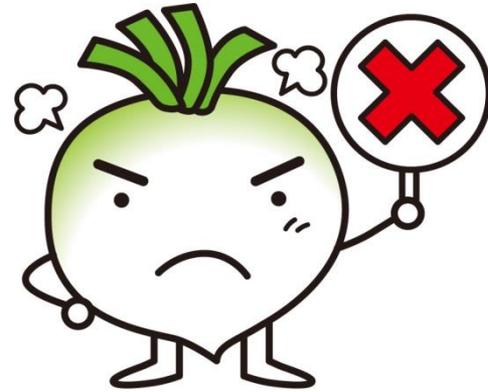
指示をする上での禁句

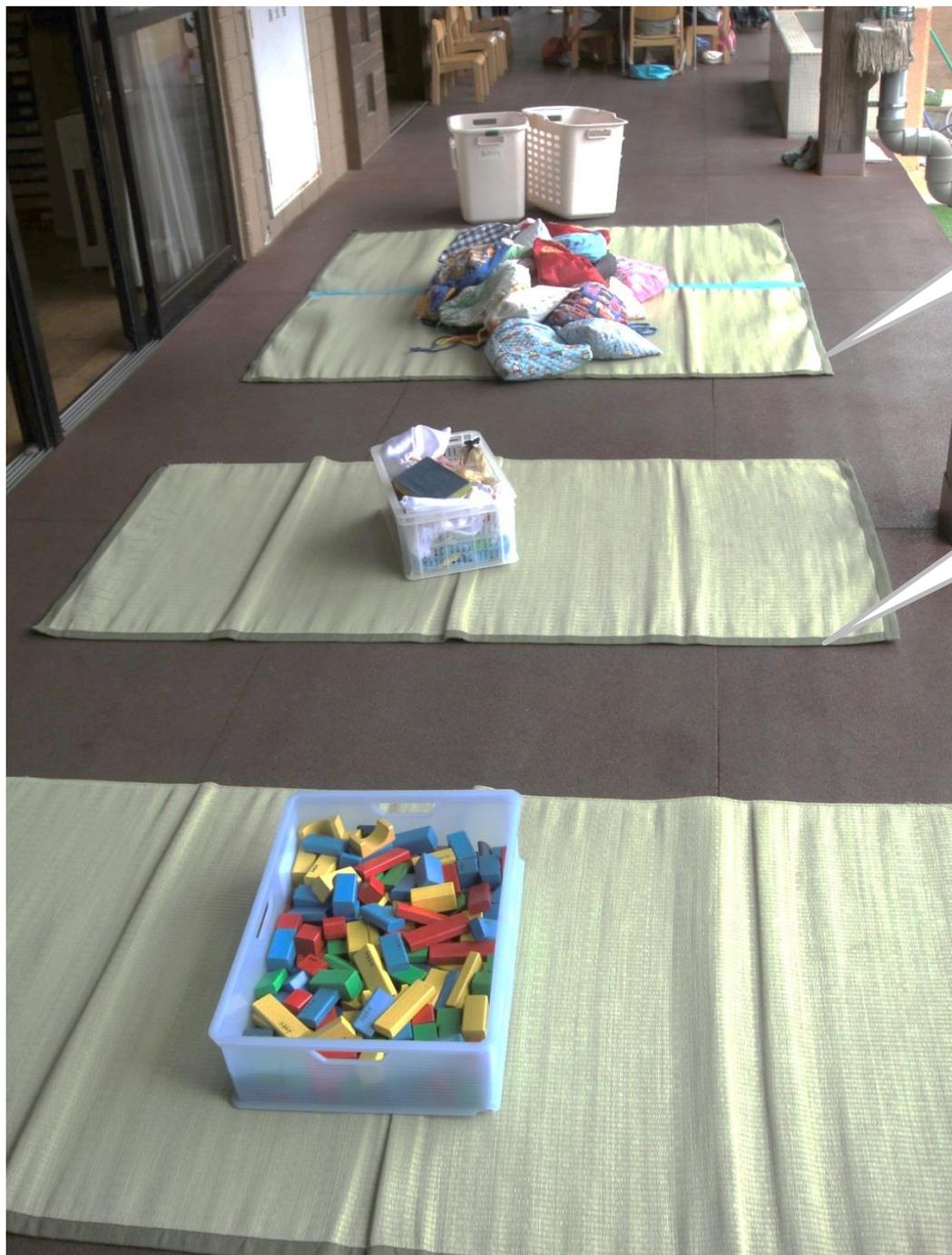
- 「きちんと」
- 「ちゃんと」
- 「上手に」
- 「しっかり」



せっかく絵カードを使っていても

- 「×」ばかり出す
- 子どもを悩めない





着替えコーナー

遊びコーナー

ゴザを敷いて何をする場所なのかがはっきりわかるようにしておく。

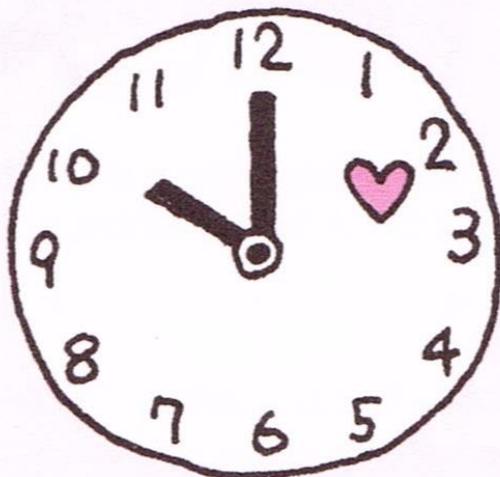
着替えコーナーで着替えをし、終わったら遊びコーナーで好きな遊びができる。



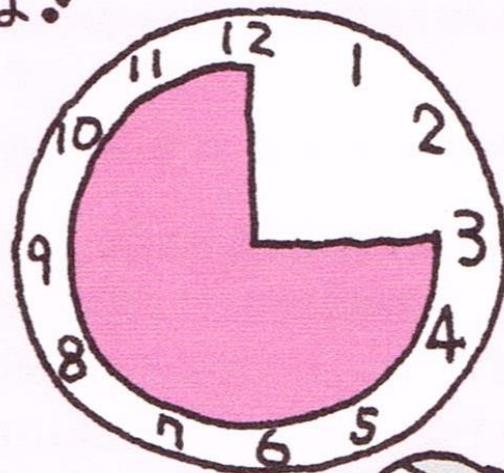
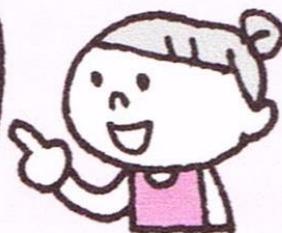


着替え、歯磨きなど集中したいときにコーナーを出しておく
自分からコーナーに入り、着替えや歯磨きをするようになった

活動の終わりを示す方法



長い針が♡に来たら
系冬わりだよ!



赤いところが
なくなったら
系冬わりだよ!



石が下に
落ちたら
系冬わりだよ!



知的障害のある子どもたちの特性1

◆言葉の発達の遅れ

: 相手が言っていることや置かれている
状況がわからない

+

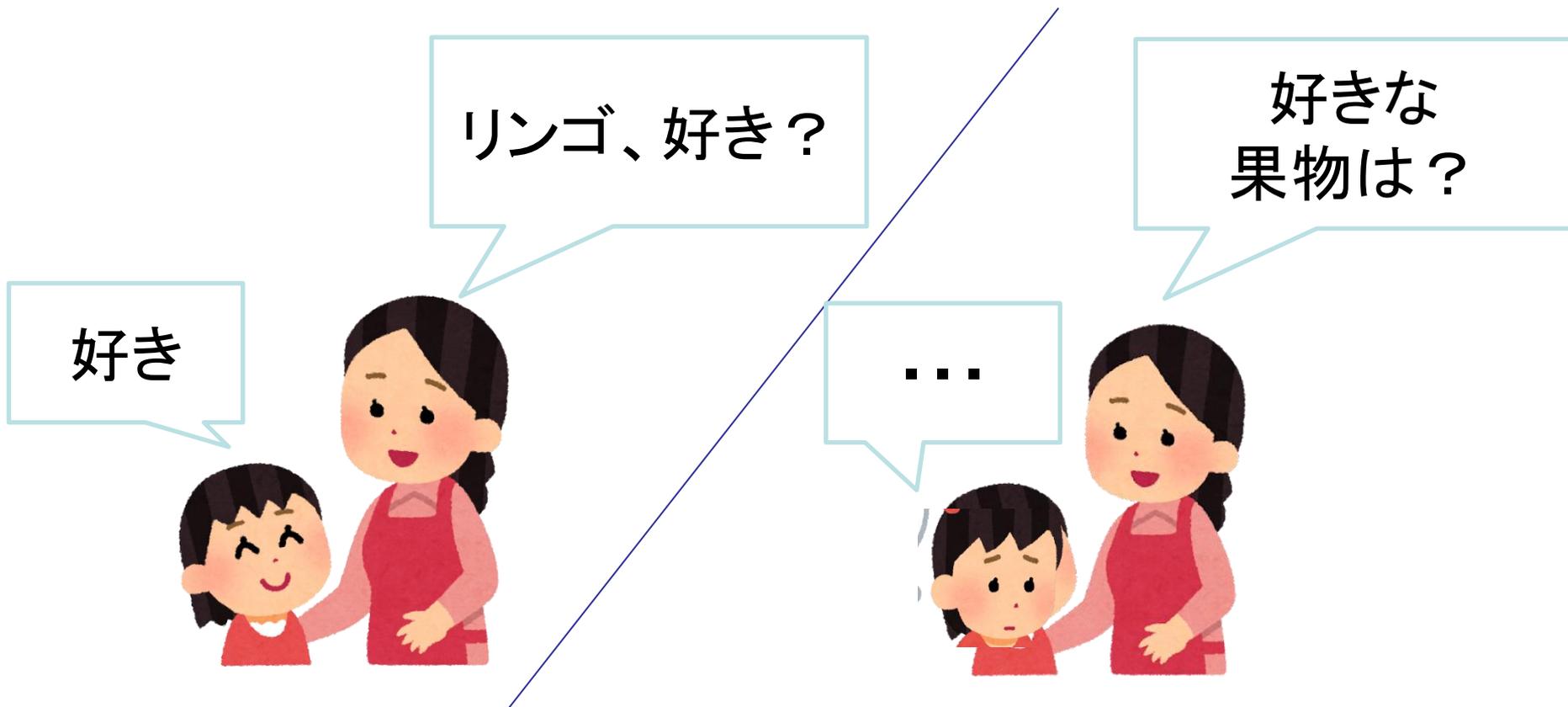
表現することができない



突然、泣き出す(ように見える)

知的障害のある子どもたちの特性2

◆ 抽象的な概念を持つことが苦手



知的発達が遅く、ゆっくりな子どもを発見するポイント

- 物事の理解に時間がかかる
(何度、言っても伝わらない)
- はじめてのことやいつもと違う事態に対応できない
- 自分で考えて行動に移すことが苦手
(いつも、まわりを見てから行動を起こす)
- 動作がぎこちない、手先が不器用

ADHDとは

◆不注意

気が散りやすく、集中力が持続しない

不注意型

◆多動性

落ち着きがなく、常に動き回っている

◆衝動性

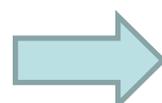
頭ではやってはいけないことがわかるが、つい衝動的に行動してしまう

衝動型

衝動型の子どもへの対応の基本1

- 直前にルールを伝えて、子どもが少しでもできたらほめる（目で見てわかるご褒美が効果的！）

お友だちを
叩かずに
遊べるよね



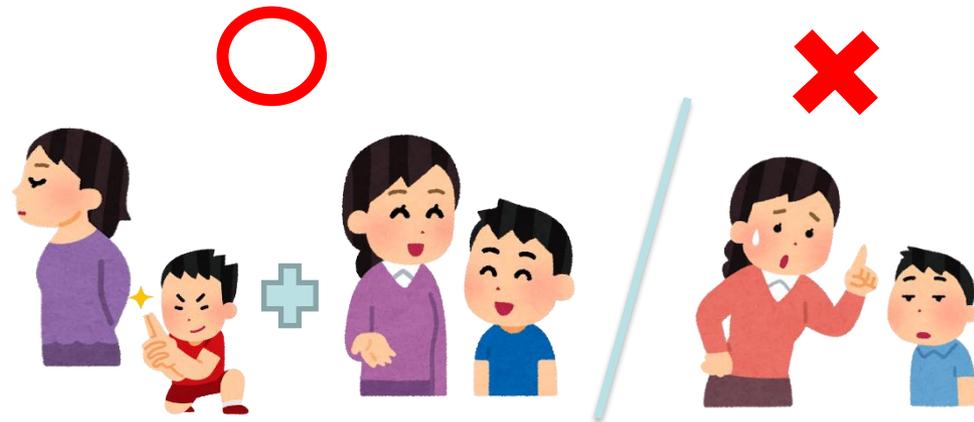
* ルールづくりの原則

- タイミングよくほめる
- 子どもが守りやすいルールにする
- ルールの数は、最小限にする

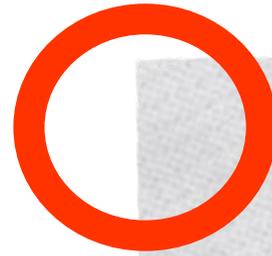
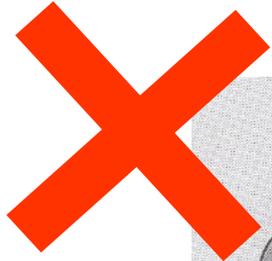


衝動型の子どもへの対応の基本2

- 注意をひこうとするために問題行動（お試し行動）をしている場合には、上手に無視をする
 - ・・・適切な行動をしている時（不適切な行動をしていない時）は、大いにほめる



嫌なことがあると物を投げってしまう 子どもへの対応



嫌なことがあったら、物を投げる代わりに、別の方法で気持ちをおさめる練習をする

場面かん黙とは

- 家庭では、普通に話すことができるのに、幼稚園や保育所、学校などで話すことができないこと
- 自分の意志で「話さない」のではなく、ある状況に置かれると、声を出そうとしても「話せない」状態になること

どうして話せないの？



不安だよお～

怖いよお～



不安から自分を守るために、「かん黙」の状態が生じています



場面かん黙の子どもに見られる状態

- 反応がない、反応がゆっくり(無表情)
 - 自分から他の人に働きかけない
 - トイレにいけない、排尿、排便の失敗
 - 偏食
 - 朝、母親となかなか離れられない
 - 人や場所の雰囲気敏感
 - 融通が利かない
- など

↑

「不安」の現れ

場面かん黙になりやすい子どもの特性

- 生まれつき、繊細で、感じやすい
(新しいものに強い不安を感じる、人見知りが激しい、慣れるのに時間がかかる)
- 発達の遅れや偏り
(半数以上の場面かん黙の子どもに**発達障害**があるとされている)

かん黙に関する誤解

- ほっておいても、自然によくなる
- 保護者の愛の不足である
- 保護者から虐待されると、かん黙になる
- しつけがなくなってからなる
- わざと黙っている
- 子どもが不安を感じているようには見えない

場面かん黙の子どもへの対応

Step1: 子どもの状態を理解する



Step2: 適切な環境、対応方法を考える

かん黙の段階

ステージ2b: 言語的働きかけ
(声を出して誰かの注意を引く)

ステージ2a: 言語的応答(ぶつぶつ声、うめき声、
ささやき声など、何らかの声ができる)

ステージ1b: 非言語的働きかけ
(指さしによって誰かの注意を引く・手を挙げるなど)

ステージ1a: 非言語的応答
(指さしする・うなづく・書く・ジェスチャーを使うなど)

ステージ0: コミュニケーションの欠如
(子どもは立ったまま動かず、無表情で硬直した様子)

E.シポンブラム「かん黙のステージ」より

子どもの状態を把握するためには？

3つのポイントでチェック

「人」: 誰と話せるのか？

「場所」: どのような場所や状況ならば大丈夫か？
家からの電話ならば話せる子どもがいます！

「活動」: 何をしている時は安心しているか？

やってはいけないこと

- プレッシャーをかけて話をさせようとする
- 物でつったり、強要したり、脅したりして話をさせようとする
- 話さないことを責める



☆保護者にも注意しておくこと！！

帰宅後、「今日はお話できた？」と子どもに聞かない

大前提として

- 何よりも楽しくコミュニケーションをすることを大切にする
(「しゃべる」ことだけがコミュニケーションではありません！)
- 子どもが自信を得る経験を増やす
- スモールステップで対応する

子どもとの関わりで配慮すること

- 目を見つめない
- 向かい合う姿勢ではなく、身体を同じ向きにする
- 相手の返答をうながしながらも、必ずしも返事しなくてもよい言い回しを使う。
(「～みたいに見えるね」「先生は～と思うな」)
- 言葉を使わないコミュニケーションを使う
(うなずいたり首をふる、手をあげる、選択肢を選ぶことによって子どもが返答できるように)
- 子どもが声を出した時に、大げさに反応しない

活動に参加するときの工夫

- 出欠の返事

うなずく、手をあげる、にこにこすることで、
返事をしたことにする

- 発表会の参加

ほかの子と一緒にセリフを言う、セリフではなく
歌にする、楽器にする

顔にお面をつける(と良い場合がある)

END



ご清聴ありがとうございました。